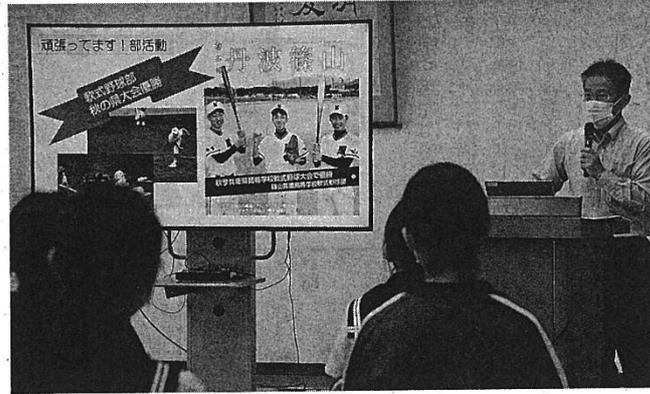


市内3高の魅力知って

市教委 関係者が5中学巡る

丹波篠山市内3高校の関係者が1-15日にかけて、市内5中学校を巡り、3年生に各高校の取り組みや実績、魅力を紹介した。生徒数の減少や他市の高校に進学する生徒が増えたことを受け、進路選択の参考にしてもらおうと、昨年度から市教育委員会の中高連携事業として実施。高校関係者らは、「特色ある地元

の高校にも目を向けて」と呼び掛けた。最終日の15日は、西紀中学校に篠山鳳鳴高の校長、篠山東雲高の教頭、篠山産業高の教諭が訪れた。



市内3高校の取り組みを紹介する関係者ら＝丹波篠山市宮田で

2022年6月23日
丹波新聞

鳳鳴高の紹介では、西紀中卒業の生徒らが動画

T(情報通信技術)を用いるなど、新しいことに挑戦している学校。鳳鳴で待っています」などと呼び掛けた。校長は、「落ち着いた雰囲気の中で、一人ひとりが夢に向かって学ぶことができる」とし、「この高校に行っても結局、頑張るのは自分。学ぶ意欲を大事にして」と語り掛けた。

産業高は、▽機械工学科▽総合ビジネス科▽電気建設工学科▽農と食料▽があり、就職と進学が半々になっている状況を説明。就職に強いだけでなく、各学科からの推薦などで大学への道も開けていることを紹介した。

教諭は、「中学校の段階で高校卒業後の進路を決めることは難しいかもしれない。入学してから決めることもできるので、ぜひ本校に」とアピールした。

農業が特色の東雲高は、▽アグリプロダクト(作物・野菜)▽アグリサービス(草花・飼育)▽フードインスティテュート(食品加工・研究)の3種類の取り組みを生徒が紹介する動画を上映。教頭は、「最先端の農業が体験できる学校。農業、動物、調理などが好きで、興味を持っている生徒たちが学校を楽しんでいる。ぜひ、オープンハイスクールの実際にどんな学校か見てもらえたら」と話した。

市教委教育研究所は、「どこを受験するかは自由。ただ、何となく市外の高校の方が良いと思う人もいるかもしれないが、市内の高校も特色があり、一人ひとりの生徒を見てくれる学校ばかり。いろんな情報を得た上で選んで」とアドバイスしていた。